



2022年12月1日
 聖心女子学院初等科
 校長 大山 江理子
 12月号

聖心はひとつの大きな家庭

副校長 中塩 百合

待降節 心新たにイエスを待つ ミサの新しい言葉 校長 Sr. 大山 江理子

11月27日日曜日からカトリック教会は待降節を迎えて、イエスを待つ日々となりました。初等科でもプラクティスを始めます。静けさのうちに新たな心を求めます。

今年の待降節は日本のカトリック教会には特別なものとなります。というのも、11月27日からミサの中で唱えられる言葉が部分的に新しいものとなったからです。この日に向けて日本のカトリック教会全体で準備に取り組み、各教会でも準備が進められてきました。カトリック学校でも合同の研修会が行われ、本校でも宗教科で相談し聖心会修道院でもシスターたちで打ち合わせを行いました。

ミサはカトリック教会で全世界共通です。内容はどこでも同じですから、言語がわからない国でもミサに参加できます。しかし、同じ内容も翻訳されると言語によりニュアンスの違いを生じる難しさもあります。たとえば、これまでミサの中で司祭が「主は皆さんとともに」と言われたら、「また司祭とともに」と応答してきましたが、今回の改訂では会衆は「またあなたとともに」と答えることになりました。日本語で「あなた」は親しい間柄で多く用いられますが、他の言語では一般的な2人称代名詞です。たとえば、英語のyouがそうです。英語のミサでは”And also with you.”なので、英語と内容は同じでも、慣れるまで少々違和感をもつこともありそうです。また、聖体拝領の前の祈りのところでも、これまで「主よ、あなたは神の子キリスト、永遠のいのちの糧、あなたをおいてだれのところに行きましょう」と言っていたところが、「主よ、わたしはあなたをお迎えるにふさわしい者ではありません。おことばをいただくだけで救われます」と変わりました。大きな変化と感じますが、英語では以前からこの内容に相当する言葉を唱えていました。

カトリック教会では1962年から65年に行われた第二バチカン公会議によって、ミサなどの典礼の言語は各地のものが用いられることになりました。それまでのミサはラテン語で行われ、全世界共通の統一性はありましたが、各地で人々が本当に理解していたかどうかは別問題です。公会議以降、各国のカトリック教会で翻訳作業が進められ、各言語のミサが確立してきました。しかし、言語や文化には特色がありますから、単純に翻訳しても受けとめられにくい場合も生じます。時と共に社会における言葉のセンスも変化します。今回の改訂はミサの真髄をより一層表すために行われたものと理解しています。

初等科では主に「子どものミサ」を利用してきました。子どもにわかりやすい言葉遣いで表されています。こちらは変更ないものとされていますが、教会などで大人のミサに参加する場合は新しい言葉に接することになります。カトリック教会の動きを児童にも意識してもらおう、11月27日の朝礼で話題にしました。



子どもたちと共に言葉の不思議さを考えながら、ミサを味わっていききたいものです。

12月の行事

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1日(木) 作文発表会(4限 1-3年) | 12日(月) 面接日・午前授業 |
| 2日(金) 6年CW練習(5-6限) | 13日(火) CW総練習(2-4限) |
| 5日(月) ハイチデー②/ゆりの行列(2nd) | 14日(水) 大掃除 |
| 1年・転入・編入保護者会 | 15日(木) 午前授業 CW総練習(2-4限) |
| 7日(水) ゆりの行列(1st) | 6年CW練習(13:20-14:30) |
| 8日(木) 6年CW練習(1-2限) | 16日(金) クリスマス・ウィッシング |
| 9日(金) 面接日・午前授業 | 19日(月) 信者静修会 |



聖心女子学院は、世界32ヶ国に約180の姉妹校と国内には8つの姉妹校があります。小学校は兵庫県宝塚市にある小林聖心女子学院と広尾にある聖心インターナショナルスクール、そして本校の3校です。

先週、私は5人の先生方と、小林聖心の小学校を訪問する機会がありました。小林聖心小学校のシスター、先生方は、長きに渡り共に聖心の教育への理解、授業のあり方や指導方法等について研鑽を積んできた大切な仲間です。数年ぶりにお会いする皆様と旧交を温めたのは勿論ですが、朝、阪急電鉄小林駅から坂道を上って行く私たちを、鮮やかなブルーの制服に身を包んだ児童・生徒の皆さんが明るく元気な挨拶で迎えてくれ、一日の始まりはとても清々しいものでした。

幾つも授業を参観しましたが、どの教室にも、自分の意見を率直に述べ考えの違いを楽しむ子どもたちの姿と、研究を重ねながら子どもたちの学びを支える先生方の姿があり、真剣なまなざしと笑いに溢れた時間が流れていました。3年生の理科では、紙コップに糸、木、針金を繋げそれぞれの音の伝わり方を予測し、実際に実験をして確かめていきます。実験の途中で起きるハプニングや新たな発見に、皆の笑顔がはじけます。6年生の国語では古典文学に親しむことを目的に、孔子、吉田兼好、清少納言という時代も国も性別も違う文学者の作品を取り上げ、アクティブラーニングの実践方法の一つとして昨今注目を集めているジグソー法を用いて、子どもたちが互いに協力し、教え合いながら学習を進めていました。ICT機器に慣れ親しんでいる姿も印象的です。音楽ではアプリを使って編曲に取り組み、図工では自分の思いを写真に収め生き生きとした自画像を描きます。休み時間に外へ走り出す4年生について行くと、ボランティアの子どもたちが庭の落ち葉をせっせと掃いており、1年坂辺りの落ち葉掃きに勤しむ初等科生の姿に重なりました。

研修日前日は、小林聖心の4年生と初等科の6年生がオンラインで交流しましたが、コロナ禍を通して得たオンラインという強力なツールを使って、遠く離れた小林聖心の子どもたちと初等科の様々な学年の子どもたちが、授業や行事、学校生活を通して関わることで更に学びが広がっていくのではないかと想像します。異なる意見や価値観に触れることは、視野を広めること、多様性を知ることにつながり、社会の中でより良く生きることにつながっていきます。その先には、世界中の人々との人種や文化を超えた関わりが待っていることでしょう。

世界中に姉妹校を創られた聖マグダレナ・ソフィアは、この光景を望んでいらしたのかもしれませんが。姉妹校は、聖心というひとつの家庭の大切な存在です。



* 喪中につき年末年始のご挨拶を失礼させていただきます。

中津 和巳 教諭 ・ 新井 瑞希 教諭 ・ 田中 愛子 教諭 ・ 鈴木 佐知 教諭

今年のクリスマス・ウィッシングのテーマ
“The Light in the Manger, the Hope in us all”
 ~Sharing the Light~
 ゆりの行列 クリスマス・ウィッシングのプラクティス
 「共に 歩もう ~私から 私たちへ~」

